

子ども記者が取材しました!

とんでん子ども体験農園へ いっしょにGO!

スローライフなまちづくりの提案
北区スローライフ書
「食と地産地消」「花と環境」
「健康と元気」「歴史と文化」

北区では、地域の特性と独自性を生かしたスローライフ運動を広めることを提唱し、区民の皆さんの主体的なまちづくり活動を支援しています。今回紹介するのは「とんでん子ども体験農園」。スローライフ宣言の4つの柱の一つ「食と地産地消(*)」の大切さを、畑での野菜づくりを種まきから収穫まで体験することを通して子どもたちが学びました。

子ども広報記者 屯田小学校6年

- 左から
- 櫻井百奈さん
- 石塚智子さん
- 真部優花さん
- 福島萌さん



子ども体験農園の詳細は
農業委員会事務局
☎ 211-3636

※地産地消
地元のもの、地元で食べること。新鮮で安全な、おいしい野菜が食べられて、農家と消費者との交流も生まれます。消費者が農業を身近に感じることができ、地元産の野菜に愛着を持つことにもつながります。

子どもたちにインタビュー!

ジャガイモとかエダマメに土をかぶせるのが楽しかった!

大変だったのは、土をかぶせすぎないように気をつけたこと。

りっぱな野菜に育てほしいです。収穫が楽しみ!

5月10日 農園スタート! 種まきの様子

とんでんきたじどうかいの子どもたちなどが参加しました。

ジャガイモ

タマネギ

トウモロコシ

札幌市農業委員会の坂田文正会長に聞きました!

この人が坂田会長!



Q どうして体験農園をやっているんですか?

この体験農園は、地産地消について子どもたちに学んでもらおうと、2年前に始めたものです。私たち地域の農家と一緒に、地元の畑で野菜づくりをしてみようということで、農業をより身近に感じてもらいたいと思っています。

Q 大変だったことは何ですか?

やはり、野菜づくりで一番大変なのはお天気に左右されることです。雨不足で野菜が育たないこともあります。その他にも、種まきから収穫まで、じっくり時間をかけて育てるのが、手間ひまがかかって苦労します。

Q 子どもたちに伝えたいことは?

自分たちで野菜を育て、収穫して、食べるまでを通して、農業の大切さ、大変さを知ってもらいたいです。そして、地元で私たちが作った新鮮野菜を食べて、野菜好きなお子もたちになってもらいたいと思っています。